

令和6年度使用 小学校各教科 教科用図書の選定結果のまとめ

鹿沼市立小中学校教科用図書選定委員会

小学校各教科

教科	選定結果 発行者略称 記号・番号	選 定 理 由
国語	光村図書 国語 113 114 213 214 313 314 413 414 513 613	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力と表現力の育成として、「書くこと」の教材では、説明的な文章で学んだ内容を活用して表現する活動が示されており、必要な情報を整理し、伝えたいことが明確に表現できるよう工夫されている。 ・伝え合う力の育成として、「話すこと・聞くこと」の単元では、学校生活に関する身近な話題が取り上げられており、手順や具体例に沿って自分の思いや考えを効果的に伝えることができるよう工夫されている。また、対話のスキルが学べる「対話の練習」が設けられている。 ・思考力や想像力の育成として、「読むこと」における文学的な文章の教材では、着目する言葉が具体的に示されており、人物像や物語の全体像を整理したり、表現の効果について考えたりすることを通して、自分の考えをもつことができるよう工夫されている。 ・各単元に「問いをもとう」、「目標」、「学習過程」を示すことで、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、振り返りの視点が単元毎に示されており、次の学習に生かせるよう工夫されている。 ・多様なものの見方・考え方に触れ、自分の考えを広げたり深めたりできるような教材が取り上げられている。また、発達段階に応じた文章構成や論理展開になっている。 ・各単元・教材のねらいを明確にし、身に付けたい力が着実に身に付くように、学年内や学年をわたって、系統的・段階的に位置付けることで、習得と活用が繰り返されるように工夫されている。 ・他教科や学校生活との関連が図れるように話題・題材が選定されている。

書 写	光村図書 書写 108 208 308 408 508 608	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材は、①導入②理解③確認④活用⑤振り返りという展開がひと目でわかるように構成している。 ・特別支援教育の視点から、大切なことが一目でわかる紙面構成になっている。 ・見通しをもって学習できるように2年では「書写の学習場面」、3年以上では「学習の進め方」を写真で示している。 ・1年巻頭に「しょしやすたーとぶっく」、3年では「毛筆スタートブック」を設け、入門期に基本をしっかりと示している。 ・2年以上の全教材に、基礎基本を明確に示した「たいせつ」が設けられている。 ・自己の成長を確認できるように全教材の末尾に自己評価欄として1年「できたかな」2年以上「振り返ろう」を設けている。 ・1年のひらがな教材では、筆づかいを擬音語・擬態語で示し、言葉を唱えながら書く工夫がある。 ・毛筆学習では、朱墨を用いて、穂先の向きや筆圧、点画のつながりなどの筆使いが把握できるように工夫されている。 ・日常の言葉や物語、ことわざ、俳句、詩などを味わう教材「ことば」が設けられている。 ・言語活動を通して、日常生活や他教科にも生きる知識・技能を習得できるように工夫している。また、「書写広げたい」を豊富に位置づけ、教科横断的な学習が充実できるように配慮している。
-----	--	---

<p>社 会</p>	<p>日本文教出版</p> <p>社会</p> <p>308</p> <p>408</p> <p>508</p> <p>608</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の社会科の目標、学年目標・内容・内容の取扱いをふまえて、社会的事象を適切に教材化した単元構成となっている。 ・児童の話合い活動から学習問題をつくり、問題解決的な学習を通して、理解を深められる内容となっている。 ・歴史学習の基本を学ぶページでは、歴史学習の3つの視点（空間・時間・関係）を明らかに示し、どのような視点で学習をすすめたらよいか、児童に伝わりやすい内容となっている。また、まとめ方も4つ例示し、児童が主体的に学習をすすめることができるような道筋をとらえられるようにしている。 ・調べ方として、メール、電話、インターネット、本や資料など様々な手法での例が示されており、児童が興味をもち調べ活動を進めていけるよう配慮されている。 ・「学び方・調べ方コーナー」では、各種資料の読み取り方、学習問題を解決するための調べ方、調べたことや学んだことの表現の仕方などが分かりやすくまとめてある。 ・児童が自ら見つけ出した問題を解決するために、調べ学習などの具体的な学習活動を通して理解を深め、追求し、気づくことができるよう、工夫している。 ・3年4年ともに、子どもたちの身近な内容や問題を網羅し、みんなで考え、気軽に話しやすくなるような配列を工夫している。 ・未来につなげる ～わたしたちのSDGS～ を設け、児童の思考を深める構成に配慮している。 ・調べたことや考えたことを表現していく過程を、分かりやすく配列している。
------------	---	--

<p>地 図</p>	<p>帝国書院</p> <p>地図</p> <p>304</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の使い方について、「地図のなりたち」「方位」「地図記号」「土地利用」という4つの項目を立てて説明するページを設けており、凡例・索引・縮尺についてもイラストを豊富に交えており、初めて地図帳を手にする3年生の発達段階も考慮したわかりやすい内容となっている。 ・各ページに掲載されているQRコードからは、帝国書院のホームページにアクセスすることができ、コンテンツも自然・産業・災害や防災・歴史・世界遺産などの様々な内容が整備されている。 ・全てのページにおいて、縮尺をさらにかみ砕いた表現で取り扱っている。1cm＝何kmに当たるかを示しており、計算等が苦手な児童でも、2点間の距離や空間的な隔たりを調べる学習等にスムーズに取り組むことができるように配慮されている。 ・各学年の学習内容に対応したページが設定されており、例えば5年生では自動車産業の学習に対応している。1ページ全面に愛知県の地図を載せ、部品ごとの工場の位置を示している。児童が産業の広がりを視覚的に捉えて理解するために有効な表現となっている。 ・社会科本来の活用を意図した地図から、教科横断的な内容や、児童の主体的な学びを促すためのページ、データ類へと、工夫された配列となっている。 ・地図の使い方や成り立ちを説明するページが多く確保されている。空撮写真と地図を比較した内容も含まれており、児童に分かりやすく配置されている。
------------	----------------------------------	---

算 数	東京書籍 算数 112 113 212 213 312 313 412 413 512 513 612	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の場面において、自分の考えを式、図、表、などの数学的表現を用いて伝え合う活動が設定されており、児童が学んだ知識を用いて表現することができるよう配慮されている。 ・学んだことを日常生活に活用する場面が設定されており、日常の事象を数理にとらえる経験を繰り返すことで、児童が算数の楽しさやよさを感じることができるよう配慮されている。 ・各単元において図や表、補助線などを使った考え方が示されており、児童がそれらを用いて考えたり、説明したりすることにより、授業のねらいを達成することができるよう工夫されている。 ・巻末には「ほじゅうの問題」を設定し、さらなる習熟が必要な場合に、児童の学習状況に幅広く柔軟に教科書で対応できるようになっている。 ・第2学年以上の発展的学習として、単元の学習を活用して数字の問題解決に取り組む「おもしろ問題にチャレンジ」を設定し、数学の世界でさらに学習を深めることができるようになっている。 ・基礎的・基本的な内容をスパイラルに学習することに重点を置き、1つの学期に理解が困難な内容や、確実な知識技能の定着が求められる内容が集中したり、特に低、中学年では同一領域の内容がいくつも連続したりしないように、単元の配列を工夫してある。 ・習熟に時間を要する内容や、スパイラルに学習することが有効な内容については、2つの単元に分けて段階的に取り扱うようになっている。特に、計算単元などは、練習の機会を増やすよう学期末や学年末の配置を避けるなどの配慮をしている。
理 科	啓林館 理科 312 412 512 612	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入から、予想や実験方法、結果、考察、まとめなどが一連の流れになっていて、児童が主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。 ・理科の見方・考え方ははたらかせやすく、見通しを持ちやすい構成になっている。理科の見方・考え方のポイントを示すことで、児童が意識的に理科の見方・考え方はたらかせ、問題解決学習を進められるようになっている。(見方・考え方マーカ) ・問題解決のステップを「学びのライン」でつなぎ、児童も教師も、見通しを持って主体的に学習できるように配慮されている。 ・実験や観察をした後すぐにまとめるのではなく、実験結果からなぜそうなるのかをよく考察し、その後まとめているので、理解を深めることができるようになっている。

<p>生 活</p>	<p>教育出版</p> <p>生活 123 124</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何をどのように学び、何ができるようになるかという「学び方」のステップが自然に身につき、学習意欲を引き出す構成になっている。 ・上下巻ともに、単元導入「わくわくスイッチ」や単元を貫く「はっけんロード」、試行錯誤を促す「かんがえまとめいろ」、振り返りを助ける「ぐんぐんはしご」が設けられ、学び方を身に付けて主体的な学びが展開できるような工夫が豊富になされている。特に重点を置いて発揮すると効果的な「力」が、各小単元（各活動）にサイコロで示され、「めあて」をもって学習に取り組むことができるように工夫されている。 ・単元末に、振り返りの活動「何をかんじたかな」が設けられている。気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化、ICT 機器の活用などの多様な方法によって、他社と伝えあったり、振り返ったりする活動が繰り返し例示されている。また、学習したことを家の人に伝えるコラム「つたえたいな」が設けられ、生活科を「生活化」できるように、学習したことを家庭や地域につなげる工夫がされている。
<p>音 楽</p>	<p>教育芸術社</p> <p>音楽 104 204 304 404 504 604</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞の各活動において、「何を学ぶか」、「何ができるようになるか」が明確にされ、児童が主体的に音楽を学べる手だてがされている。具体的には、3つの観点「考える」（思・判・表）「見つける」（知識）「歌う・演奏・つくる」（技能）をどのように学ぶかを示すことで、子どもたちの主体的な活動を引き出せるように工夫されている。 ・鑑賞では、音楽の楽しさや美しさに気づき、感動する心を育てる観点から、聴くねらいをわかりやすく示している。また、楽譜の一部や音の動きを表した表と、感じたことや気付いたことを書き込みできる表が見開きで記載されている。 ・教科の特性を生かし多様性を理解するために、世界の様々な地域の声や楽器、日本の伝統的な楽器などの鑑賞教材が精選されている。 ・音楽づくりでは、児童が、「何を」「どう工夫して」音楽を作ればよいのかという見通しを持てるように、作品例や様々なアイデアの例示がされ、思考・判断しながら、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。また、題材構成や表記の仕方が工夫されており、活動の手順が簡潔に示されている。 ・キャラクターの吹き出しの言葉により、具体的な学習の流れやヒントを示し、児童が主体的・発展的活動ができるように配慮されている。 ・歌唱や器楽の技能については、発達の段階を考慮した無理のないステップが踏まれている。 ・歌唱において、低学年では交互唱や輪唱、中学年では二部合唱に向けた段階的な教材、高学年では部分三部を含む音の重なりを意識した教材が取り上げられており、学年が上がるごとに徐々に学習が深まるように配慮されている。

<p>図画工作</p>	<p>開隆堂</p> <p>図画工作</p> <p>105</p> <p>106</p> <p>305</p> <p>306</p> <p>505</p> <p>506</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「造形遊び」「絵や立体」「工作」「鑑賞」の各領域において、児童の発達段階に細かい配慮がなされており、題材で使用する道具や材料が、見やすく最上部に示されている。また、教科書紙面に掲載されたQRコードを通して、製作の手順やポイント、用具の使い方の動画を見ることができるので、作り方が分かりやすく児童も安心して制作に取り組むことができる。 ・「造形遊び」について、五感をのびのびと使い、材料や用具と関わることにより生まれた表現を、他者のつぶやきを刺激として、自ら試行錯誤する場面が掲載されている。 ・「絵や立体、工作」について、児童作品の制作意図が掲載されている。また、他者との関わりから刺激を受けて、表現を豊かにする場面が掲載されていることで、コミュニケーションを通して、自分の思いを深めることができるよう工夫されている。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、表現内容の構成を捉えることができるように、各題材における活動の手順が示されており、児童が見通しをもって学習し、その振り返りができるように工夫されている。また、児童作品を互いに鑑賞することができるように場面が掲載され、児童のつぶやきを参考にしながら言語活動が行えるよう工夫されている。 ・巻末資料「ひらめきショートチャレンジ」では、形や色に対する見方・考え方を働かせ、次の題材の表現に生かせるように配慮されており、発想や構想の能力を培う参考資料となっている。 ・構成や配列の系統性について、題材のねらいに沿って使用する題材や用具が学年を追うごとに深まるように位置づけられている。前学年の学びを生かしながら児童が学びを重ねられるように配慮されている。 ・1、2年上巻では、就学前の体験や幼児教育との接続を図ることができるよう配慮させている。また、5・6年下巻では、小学校の学びを中学校の学習や生活で生かされるような内容を掲載し、中学校への接続を意識した内容になっている。 ・他教科・他領域との関連について、教科書下部に他教科・他領域に関連する内容を掲載し、教科横断的な学びを図ることができるよう工夫されている。
-------------	--	--

<p>家 庭</p>	<p>開隆堂</p> <p>家庭 504</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨が生かされ、児童の実態に応じて内容が段階的に取り扱われている。本書全体を通して、各題材において、「気づく・見つける」、「わかる・できる」、「生かす・深める」の三つのステップで問題解決的な学習を進めることで、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育むとともに、家庭や地域の一員として実践することができるよう工夫されている。 ・5学年では基礎的内容を中心に題材を区切って学習に取り組むことで、基礎・基本を着実に身に付けられるように構成するとともに、6学年では生活に生かす工夫をする内容を中心に既習を生かす構成にすることで、学んだことを実生活で活用する力を育むことができるよう工夫されている。中学校家庭分野との系統性について、「2年間の学習を中学校につなげよう」にまとめて記載することで、関連を意識して学習することができるように配慮されている。 ・様々な課題をもった現代と未来を生きていくために、SDGs、防災、プログラミング、キャリアなど多様な視点を学習内容に関連させて取り入れている。 ・題材の最初のページに、その題材で意識する「生活にかかわる4つの見方・考え方」を掲載し、途中のページにも「見方・考え方」のかかれたクローバーの葉を持ったキャラクターが登場するなど、学習を進める中で見方・考え方を働かせていくことができるように工夫されている。 ・「生活の課題と実践」の取り組み方を5つのステップで示し、具体例をヒントに自分の「生活の課題と実践」に取り組みやすく工夫されている。 ・「生かす・深める」等で、児童が対話したり、友達と意見交換したりできるような学習活動を多く取り入れ、児童同士や家族、身近な人たちと関わりを通して考えを明確にすることにより、自らの考えを広げ、深めることができるよう工夫されている。
------------	------------------------------	---

保 健	東京書籍 保健 306 506	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題が明確に示されているため、児童が主体的に学習に取り組めるようになっている。 ・学習内容に合わせて活用できる書き込み欄があり、児童が主体的に学習し、自分の考えを深めることができるよう工夫されている。 ・「解説」「まめちしき」のコーナーでは、児童が学習の理解を深めるための言葉の詳しい解説や補足情報が十分に示されている。 ・わかりやすいレイアウトや親しみやすい絵、写真を取り上げ、学習に意欲的、主体的に取り組めるように配慮されている。 ・発達段階に応じ、ポイントを明確にした理解しやすい図が使われている。 ・適切な組織、配列となっている。各单元とも課題が明確になっていて、「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」「学習をふり返ろう」など学習のしかたを明示して展開されているので、学習の見通しが立てやすくなっている。 ・各单元の導入で他学年とのつながり、他教科とのつながりが示されている。
英 語	東京書籍 英語 509 510 609	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の選択については、発達段階に沿って、身近なことから徐々に視野を広げられるように、第5学年では自分のこと、身近な地域のこと、そして日本のよさを発信する題材が選択されている。第6学年では、自分のこと、日本と世界とのつながり、そして中学校に向けて小学校の思い出や将来の夢についての題材となっている。 ・中学年や中学校との接続も含めて、ピクチャーディクショナリーに5・6年を通じた学びを見通すことのできる CAN-DO リストを「CAN-DO の樹」として示し、明確な到達点に向かって学習を進められるようにしている。 ・育成を目指す資質・能力の3つの柱を適切に配置した、Starting Out ,Your Turn, Enjoy Communication, Over the Horizon という各单元4パート構成で、学習内容の慣れ親しみから、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力などを働かせる活動へと段階を踏んだ構成になっていて、見通しがもちやすい。 ・5領域アイコン（聞く・読む・話す（やりとり）・話す（発表）・書く）で、その時間にどんな活動を重点的に学ぶかが明確にされている。 ・程度については、児童の発達段階に応じて、第5学年では聞く活動、話す活動など音声を中心とした学習を行い、第6学年では、徐々に読む活動、書く活動を導入するなど、バランスが工夫されている。 ・外国語の背景にある文化を理解するために、世界各国の様々な人種や題材を取り上げ、世界への視野を広げられるように工夫され、多文化共生、国際協力、生命の尊さ、豊かな情操と道徳心を培うように配慮されている。

道 徳	光村図書	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の趣旨に即して、学年の発達段階に合わせて内容項目の四つの視点が適切に取り扱われている。 ・「考えるヒント」という項目で学年に合わせて自分の考えを表現する方法や気持ちを表す言葉などをわかりやすく伝え、児童自身が自ら考えを引き出す手立てが理解できるようになっている。 ・教材の内容の他、やさしいタッチの挿絵が多く、文字のフォントも見やすく読みやすい。発達段階や学びの実態、配慮を要する児童にも合わせたユニバーサルデザイン的な工夫がなされている。 ・「考えよう・話し合おう」には、問題を明らかにする問い・道徳的価値についての理解や自覚を深める問い・テーマ的に考える問いが示されており、教材を通して学んだことを自分に置き換えて考えたり、問題解決するために話し合ったりできるように配慮されている。 ・発達の段階と教材に合わせて、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習などを織り交ぜながら、道徳的な価値の自覚学習指導を深められるよう工夫されている。 ・教材名の下に「投げかけ」が書いてあり、その後教材を読み、「考えよう・話し合おう」、「つなげよう」と流れ、1時間の授業展開が分かりやすいように、工夫されている。 ・教科書の冒頭には、生き方をよりよくしてくれるヒント「道徳で学ぶ20のとびら」と1年間の学びを見通す「道徳道案内」が設けられ、道徳の時間に何を学ぶのか、授業で何を学んでいるのかがわかりやすく提示されている。また、巻末には1時間ごとの振り返りが書き込める学びの記録が折り込みであり、1年間の自分の学びが見渡せるようになっている。
-----	------	---